



第4回企画展

「本土決戦と秘密戦」

—その時登戸研究所は何をしていたか—

2013年11月20日(水)～

2014年3月8日(土)

(冬季休館期間：2013年12月22日～2014年1月7日)

好評
開催中

登戸研究所資料館では、ただいま企画展を開催しております。第4回目のテーマは「本土決戦と秘密戦」とし、本土決戦体制下に長野県伊那地方を中心に疎開した登戸研究所の役割、また密接な関係であった中野学校との関係の変容を通じて、次の3点に焦点をあてて本土決戦準備の実態に迫ります。

- ①本土決戦体制は決して「幻」だったわけではなく、現実に準備されていたことを、松代大本営跡など長野県を中心とする地域の実地調査をもとに明らかにします。
- ②本土決戦における秘密戦の実戦部隊であり、登戸研究所でも密接な関係であった陸軍中野学校の役割の変化について検討します。
- ③本土決戦において使用する秘密戦兵器の研究・開発・生産にあたっていた疎開後の登戸研究所の実態について明らかにするとともに、次第に実戦部隊である中野学校と一体化していく過程を追跡します。

当企画展は、この企画展のために取材・調査・研究を重ねた成果をご紹介するパネル20点以上と、本土決戦が確実に準備されていたことを実感させる東京湾要塞史跡や松代大本営跡の今を伝える写真、登戸研究所が疎開先に残した資料の現物展示から構成されています。これまで初めてご紹介する資料も展示しています。

皆様お誘いあわせの上、是非ご来館ください。

まだまだあります！企画展関連イベント

- ・サテライト展示@中野キャンパス ⇒ p.2 に関連記事
2013年12月20日(金)まで
- ・証言会
元登戸研究所関係者が語る「登戸研究所の移転・疎開」
2013年12月21日(土)
- ・記念講演会「本土決戦・登戸研究所・中野学校」
2014年1月11日(土)
- ・山田朗館長による企画展展示解説
2014年2月22日(土)

⇒詳細は p.4 へ



登戸研究所が疎開先に持ち込んだガスマスク(左)と登戸研究所が疎開先で研究開発した、時限爆弾に使用するための「時限装置」と思われる時計(右)。

『大月日誌』(右手前)と「北沢隆次氏書簡」(左奥) どちらも元登戸研究所所員の残した第一級資料。登戸研究所の疎開先での役割などが読み取ることができる。



—今号の注目記事—

- ・「元登戸研究所勤務者が語る陸軍秘密戦研究所」
第二回〈登戸研究所での勤務内容②〉 → p.3

▶▶▶ facebook, twitter やっています。

 <https://www.facebook.com/Noboritoshiryoukan>

 https://twitter.com/meiji_noborito

※現物展示は中野キャンパスのサテライト展示ではご覧いただけません。

(椎名記)

また前号でのお知らせのとおり、今回の企画展は登戸研究所資料館を飛び出して、中野キャンパスでもサテライト展示を行っています。登戸研究所資料館に展示されている、写真、現物展示を除いた企画展のパネルの全てを中野キャンパスでもご覧いただけます。

本土決戦と秘密戦を語る上で、当時登戸研究所と密接な関係のあったスパイの養成機関であった「陸軍中野学校」。奇しくも中野キャンパスはその跡地にあります。かつて秘密戦を担った二つの機関である中野学校と登戸研究所。両機関が深く関係した場所で、共に活

躍していた時代を想像しながら展示をご覧になるのも面白いのではないのでしょうか。

また、生田キャンパスは少し遠いけれど、中野なら行ってみようかな…という方は、絶好の機会です。是非この機会に足をお運びください。



中野キャンパスでの展示の様子。会場のクロスフィールドラウンジにはソファもあり、くつろぎながらご覧いただけます。

企画展をご覧になったお客様の声

お客様からいただいた反響の一部を、アンケートより抜粋してご紹介いたします。

- 松代大本営跡の展示、写真が興味深かった。(40代女性)
- 中野学校の関連が面白い。(70代男性)
- 時限爆弾に使われた時計のキレイさにはビックリしました。第一級の資料では。(60代女性)

- 本土決戦に際した日本の動きをリアルにみる事ができた。(20代男性)
- すべてに興味を持ちました。(60代男性)
- 中野学校、松代大本営との関連性を総合的に理解する手掛かりがあった。これまでの太平洋戦争研究は昭和天皇の「聖断」によって終わっているのが多い。しかしその聖断の背後での動向について分析するのが残された課題だろう。(企画展展示解説会参加者・70代男性)

(この頁、ここまで椎名記)

企画展 関連イベント紹介

山田館長による企画展展示解説

11月に大変好評だった企画展解説会を下記日程でも行います。本土決戦と登戸研究所の関わり、そして中野学校と一体化していく登戸研究所... その模様を日本近現代軍事史研究の第一人者でもある当館館長山田 朗が詳しく解説いたします。ぜひご参加ください。

2014年2月22日(土)
開始時間 13時(約60分)
*開始5分前までに
資料館受付前にて
集合していただきます
ようお願いいたします。



11月23、24日に開催された企画展展示解説会での一コマ。多い時は50名もの来館者の方が耳を傾けていました。

ワークショップ報告

11月にワークショップ「風船も兵器に？ 和紙でランプシェードを作ってみよう」を開催しました。両日で30名の方にご参加いただき、思い思いのランプシェードを作りながら、登戸研究所で研究開発された決戦兵器「風船爆弾」について学んでいただきました。



ランプシェード作成中……

アンケートより
• 兵器の技術が遊びに
使用できる平和な時代
になってよかった。
(30代~50代)
• 風船が兵器になると
聞いて驚いた。(30代
~50代)

(森記)

「元登戸研究所勤務者が語る陸軍秘密戦研究所」

第二回 〈登戸研究所での勤務内容②〉

前号に続き、今年の3月9日に行われた証言会のお話を紹介いたします。今回は第三科で偽札裁断のお仕事をされていた方のお話です。

※ [] 内は資料館で書き加えた内容です。

〈登戸研究所での勤務内容〉

— 大久保豊一様（第三科南方班ご勤務） —

小学校を卒業して1941（昭和16）年4月に入所。1944年12月まで南方班で支那の札をつくる業務にたずさわっていた。南方班はなお秘密の場所だと感じた。南方班の建物の周りには高い塀がぐるっと囲っていた。人が通るには開木戸ひらきどをくぐって入った。とにかく秘密主義って云う事で今日まで70年間堅い沈黙を守ってきました。何かしゃべったら大変なことになると思っています。

[囲いの] 中には建物が、南方班なので敷地の中で南の端に細長い建物が3つ、平行にあった。その中の真ん中の建物で私は働いていた。細長い、一番東側の建物で働いていた。[中の様子は] 大きな印刷機がぐるぐるまわっている。それは秘密だからわからないけれど、ドアをあけたらそんなものが映っているのが見えて、ああ印刷をしているんだなと。その隣[の部屋] が私たちの作業所で、できあがったものを裁断をした。その隣に通路があって事務所があって、それから科長の部屋もあり、倉庫もあった。一番左、西側には印刷する版を作っていたようです。とにかく自分の部屋以外は行っちゃいけないと固く注意をされていたんですよ。見ませんのでわかりませんが、通路を通る人がその鉄板を、印刷する盤を抱えている人が通ることがあるからこれはそうなんだなとそう感じた。一番南側の建物には、やはり細長い、木造の建物ですけど、印刷の検査、その隣には乾燥室があった。そんなところは、私、寒い時に温まりにいった。そんな記憶があります。

できあがって検査したものを、私のいた二番目の建物に持ってきてお札を運んできて。10円札が6つ写っておりました。それを私たちの裁断のところにもってきまして、湿らしたのかわからな

いけど、乾燥させて検査したもので、いくらかピリッとしてなくてふわっとしてるんですよ。それをわたしが裁断するにあたって、お札ですから、寸分の狂いないようにしなくちゃいけない。そのために、タテとヨコと2面をぴちっとおしりで切って、おしり切る人は前にいてもらって、こちらに揃える人が3人くらいいて、それで切ると。その切ったものが、裁断係の人が裁断する。その枚数は100枚くらいはあったでしょう。裁断係がいて助手が2人くらいいて、裁断係の人が切ると。このお札をぴしゃっと固定する。固定したものをボタンを押すとすごい鉄の刃がびしっと落ちて切ると。それが私たちの任務でした。



現在、資料館がある建物

1947（昭和22）年米軍撮影航空写真（国土地理院所蔵）

赤く囲ってある部分が大久保様の証言に出てくる木造建物。大久保様はこの3棟のうち中央の建物で勤務したとお話されています。この建物は2011年3月に解体された5号棟にあたります。

前回の掲載内容2頁29行目に誤りがありましたので下記の通り訂正いたします。

〈誤〉「焼夷剤爆発実験を一宮海岸の海岸線で行った。」

〈正〉「缶詰型爆弾を時限的に爆発させる実験を一宮海岸の海岸線で行った。」

読者の皆様ならびに証言をして下さった小川様にご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

次回は第三科にご勤務されていた土本こま様、偽札を上海まで運んだ中野学校卒業生、土本義夫様のお話をご紹介します。（塚本記）

企画展関連イベントのお知らせ

● サテライト展示@明治大学中野キャンパス

陸軍中野学校跡地に2013年度新設された中野キャンパスで本企画展のパネルを展示します。
(写真と現物展示はご覧いただけません)

【日時】2013年12月2日(月)～12月20日(金) *日曜日を除く 10時～17時

【会場】明治大学中野キャンパス6階クロスフィールドラウンジ

(JR中央快速・総武線, 東京メトロ東西線 / 中野駅下車 北口より徒歩8分)

● 証言会 元登戸研究所関係者が語る「登戸研究所の移転・疎開」

【日時】2013年12月21日(土) 13時～15時

【会場】明治大学生田キャンパス中央校舎6階メディアホール

【参加費用】無料 【参加方法】当日会場までお越しください。

登戸研究所にお勤めされていた方など5名をお招きして当時のお話を伺い、登戸研究所の「疎開」が何であったのかを探ります。

● 企画展記念講演会「本土決戦・登戸研究所・中野学校」

【講師】山田 朗 (当館館長, 明治大学文学部教授)

【日時】2014年1月11日(土) 13時～14時半

【会場】、【参加費用】、【参加方法】については証言会と同様です。

本土決戦と登戸研究所・中野学校の関係性について迫ります。企画展をより深くご理解いただける内容です。

皆様のご参加をお待ちしております。

見学会のお知らせ

明治大学構内に残る登戸研究所史跡案内をしたあと、解説つきで資料館をご案内いたします。

山田 朗 館長 ガイド日：1月25日(土) / 3月1日(土) / 3月8日(土) / 3月22日(土)

渡辺 賢二 先生 ガイド日：2月1日(土), 2月8日(土), 2月15日(土), 3月15日(土)

集合場所：13時 明治大学生田キャンパス 中央校舎1階ロビー

内容：学内に残る史跡を見学した後、館内にてDVD視聴。その後常設展示を解説いたします。(終了予定15時)

参加費：無料 <<学外の方は事前予約をお願いいたします>> *見学会当日の午前中まで受け付けます。

12月14日に入館者が30,000名を超えました！
セレモニーなどの様子は次号お伝えいたします。

<<開館のご案内>>

水曜日～土曜日 午前10時から午後4時

入館料：無料

12月22日(日)～2014年1月7日(火)と2014年1月18日(土)は、冬季休業およびセンター入試のため休館いたします。

*10名以上の団体予約を希望する場合は、原則、見学希望日の1か月前までにお電話またはメールにて事前にご予約をお願いします。

*団体予約の場合は日曜日もご予約可能です。ご相談ください。ただし、予約状況などによりお断りすることもあります。ご了承ください。

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス TEL/FAX：044-934-7993

E-mail：noborito@mics.meiji.ac.jp

URL：http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html

twitter ：https://twitter.com/meiji_noborito

facebook ：https://www.facebook.com/Noboritoshiryoukan